

灌漑に用いられる開水路に関する次の記述A～Dのうちには妥当なものが二つある。それらを選んでいるのはどれか。

- A. 開水路は、管水路に比べ、圧力と流量の水理的応答が格段に速い。
- B. 一般に、幹線用水路では需要主導的な、支線用水路を主体とする配水ブロックでは供給主導的な水管理がそれぞれできるような水管理方式を採用する場合が多い。
- C. 開水路の流れは、落差工や急流工などの減勢施設以外では、常流を前提に水頭配分や水理設計が行われる。
- D. サイホン部やチェックゲートでは、設計最大流量の流下時だけでなく、中間流量など最大流量以下の流量においても流れの安定性を確保する検討が必要である。

- 1. A, B
- 2. A, C
- 3. A, D
- 4. B, C
- 5. C, D

正答 5

林分材積の調査法に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 林分材積の調査法には、対象地の林木をすべて測定する全林調査と、一部分を抜き出して調査する部分調査があるが、前者でなければ統計的な推定ができない。
2. 林分材積は森林経営をする上で最も重要な指標なので、特に人工林では頻繁に、できるだけ正確に調査をして日頃から把握しておくことが必要である。
3. 標準地法を用いて森林の中に幾つかの標準地を設ける場合、標準地は全体を代表するよう意図的に選ぶ。
4. 一般に、調査する森林が高齢で低密度なほど、標準地の面積は小さくてよい。
5. ビッターリッヒ法を用いる場合、林縁付近に標本点を選ぶと正の偏りを生じやすい。

正答 3